

# えべつの未来づくりミーティング

## ～ 地域経済に関わりの深い方（経験豊富な農業者）編 ～

令和4年6月29日（水） 江別市民会館2階21号室  
午後4時～午後6時15分

### 1 江別市の「強み」「弱み」は

・大消費地である札幌市に近いことが強み。農作物を早く出荷することができる。港がある苫小牧市や、空港がある千歳市にも近いので、本州にも出荷しやすい。弱みは、水道料金が高いこと、農村部に行くと道路が悪いこと。近年は農業機械が大型化しているため、対応できるように改善を考えてほしい。



・江別市は麦の里として知られており、自分も麦を作っているが、娘がキッチンカーでハンバーガー店を始め、小麦、レタス、大豆ミートなど、江別産の食材を使っている。原価が高いため、ハンバーガーの値段もそれなりに高いが、リピーターが増えて繁盛している。値段が高くても、おいしくて良い食材を使えば売れることが分かった。六次産業化の事例として、農林水産省の方がインタビューに来た。



・食育や農業体験などで、小学生を受け入れている。農業は魅力があるので、もっと情報発信をしたいと思っている。修学旅行生の受け入れなどもできたら良いと思っている。江別産の小麦は注目されているが、希少価値が高く、価格も非常に高い小麦でもあり、幻の小麦と言われている。小麦を生産している息子が、自分で作った小麦を売りたいと、江別製粉に相談したところ、実現した。日本で消費する小麦は年間600万トンだが、そのうち100万トンが国産で、500万トンは海外からの輸入に頼っている。今もウクライナ紛争の件で小麦のことが話題になっているが、小麦だけでなく、大豆なども日本の自給率を高めていかなければならないと思う。

・大消費地の札幌市に近いことは、強み。国道275号沿いで直売所を営んでいるが、利用者の8割は市外の方。江別市は国道も道道もあり、交通アクセスが良いと思う。一方、雁来の辺りで交通渋滞していることが残念だが、新しい橋ができるような話も聞いているので、それが完成すれば解消されるかもしれない。除排雪について、自分も10年ぐらい前に重機のオペレーターをしていたが、当時は除排雪への苦情などは少なかった。今年は、排雪のダンプカーの数が足りなかったと聞いているため、江別市と江別環境整備事業協同組合が連携して、解決してほしいと思う。



・強みは、市内に食料を生産する農地があること。また、東西南北のゴルフ場に30分以内で行くことができ、札幌市が近い。季節によっては風が強いが、そのおかげで空気がきれいである。弱みは、産業が少ないこと。江別市は、昔はなるべく予算をかけないようにしていたが、今は建設的な考え方になったと思う。周りの自治体は、人口減少対策に必死に取り組んでいるので、このままだと江別市は取り残されてしまわないか心配である。市職員は、もっと海外に行くなどして知見を広めてほしい。また、宅地造成の手続きを市役所で行おうとすると、宅地が増えれば固定資産税が入ってくるにもかかわらず、許可がなかなか出ないと聞く。積極的に宅地造成をして、人が住めるようにしたら良いと思う。

- ・強みは、札幌市へのアクセスが良いこと。公園など自然に触れられるところが近くにある。買物の場もあり、江別蔦屋書店など市外から人が訪れる施設もできている。しかし、駅から離れたところにあるため、車のない人は行きづらい点が弱みだと思う。

## 2 江別市における将来の地域農業の活性化策について

- ・農業者の多くは、自分で作った農産物の値段を決めることができないのが残念。また、直売所で販売しても、見栄えて農産物の良し悪しを判断する消費者も多い。農作物への理解を深めてほしい。
- ・若い世代が関わるのが大切。これは他の産業も同じだと思う。また、スマート農業を進める上で、ローカル5G（一般企業や自治体などが、それぞれのニーズや目的に応じて自ら構築・運用・利用できる、自営の移動通信システム）があると良い。農業だけでなく、建設業などでも活用できると聞いているので、取り組んでほしい。今年の除排雪は、体制の問題もあるが、中央分離帯や街路樹など、除排雪する際に障害となるものがあることもうまくいかなかった原因の一つだと思う。
- ・農家はそれぞれ状況が違う。耕作面積、機械の種類、家族構成など、いろいろ違って、同じであるところは、一つもない。目標としているところも違う。自分は、自分が作ったものを買ってもらい、満足していただくことを目標にしている。製粉会社の人に、畑で生育状況を見てもらって、喜んでもらえることも嬉しい。一方で、農家がこれ以上減っていくことは心配。農家は農作物を作っているだけではなく、周りの自然や環境の整備も行っている。農家がいなくなってしまうと、農地ばかりではなく、周りの環境も荒廃する。農家を減らさないようにするために、若い農家に希望を持ってもらえるようにしてほしい。元気づけてあげてほしい。
- ・市内に野菜の加工場があれば良いと思う。



- ・農家一軒当たりの耕作面積が拡大しているが、将来的には、深刻な担い手不足が懸念される。篠津地区にも新規就農者が入ってきているが、農業にはお金がかかるため、自己資金でスタートすることは難しい。農業委員会としても、新規就農者が増えることは良いことだと思っているので、支援策の充実を検討してほしい。また、野菜の生産が増える中でパート人材が不足している。季節や時間が限られるパートなので、来てくれる人が少ない。農業の短期アルバイトを募集できるアプリもあるとのことだが、人材を確保する体制ができればと思う。パートが増えれば、野菜の品種を増やすこともできると思う。
- ・土壌や作物の研究が大切。海外では農業振興にかかる予算はとても多い。これからは自国で食料を確保することが大切になってくる。また、ブロッコリーなど新鮮な野菜が生産されているので、市内のショッピングモールなどで、江別産の農作物を売ったら良いと思う。大麻地区にある大型商業施設を見ていると、たくさんの方が買物に来ているため、新鮮な野菜を売れば、市外からも買いに来てくれると思う。良いものを作って、加工して、売るという取組を行っていくと良いと思う。
- ・後継者不足はどの産業でもある。パートの話があったが、大学生に協力してもらえないだろうかと思った。モノ消費からコト消費への志向が高まる中、江別産食材を用いたキッチンカーの人気があるのは、江別産の食材のストーリーが魅力的であるからだと思う。そのほか、SDGsの観点からも、農業の活性化につなげていけないだろうかと思った。

### 3 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について



・何をやるにもお金が必要なので、まずは、産業をつくるのが重要だと思う。また、市内の保育所が増えてきたため、待機児童は解消されているようだが、江別市には、子どもを産むことができる場所は江別市立病院しかないため、子どもを産める環境をつくることも大切だと思う。新規就農者の定着率が100%のところは、営農支援だけではなく、教育の負担軽減など日常生活面でも助成を行っている。江別市でも、そのようなことを検討してはどうだろうか。

・後継者である息子が、結婚して江別市内に家を建てた時、住宅取得支援事業の助成を受けたが、子どもの人数に応じた助成額であるため、満額ではなかった。家を建てることは一生に一度のことなので、もう少し助成額を増やしてほしいと思った。また、知人の農家の娘さんが農家の敷地内で喫茶店を始めるということで準備しているが、そのような時にも、もっと助成してあげられないだろうかと思う。

- ・行政に対するさまざまな申請をする際、書類の量が多く、とても煩雑なので改善してほしい。
- ・江別市都市と農村の交流センター「えみくる」が話題になっている。江別産の野菜を使って食育も行っているようで、とても良いことだと思う。20年前に子育てをしていた時には、ちょうど学校選択制が導入された時で、地区外の小学校を選択する子どもが増えてしまい、地区の住民は残念がっていた。児童生徒が多い学校で、勉強させたい、部活をさせてあげたいという親の気持ちもあると思うが、結果として地区の人口減少に拍車をかけることになってしまった。
- ・江北地区のデマンド型タクシーが、今年から本格稼働となったが、使う方が多くない。使い勝手や効率の良い方法をもっと考えてほしい。できれば、近所の要所を巡回するデマンド型バスにしてほしい。運転免許を返納した高齢者が、散歩がてらに使えるようなイメージ。直売所にも寄ってもらいたい。デマンド型タクシーよりも使いやすくなるのではないかと思う。
- ・できるところは宅地造成をして、人口を増やすことが重要だと思う。なお、専門特化した病院が多い札幌市が近いので、市内の病院の患者が少ないのは仕方がないと思う。また、税金を上げることが重要であるため、世界の情報を集めて、施策を考える必要がある。分析が得意な市職員もいると思う。自治体は、生き残りゲームになってきているため、マネジメントも大切だが、基本的な研究がなされていないといけないと思う。
- ・様々な分野が連携することが大切。にぎわいが生まれるような目玉を作ることも大切。目玉は施設だけでなく、子育て支援や観光振興、農業など、ソフト系の取組かもしれない。また、江別市にはアクティブシニアが多いので、まちづくりにもっと協力してもらうことが重要だと思う。

